



北太平洋におけるさけますの資源状況と  
2025年（令和7年）夏季ベーリング海調査結果

水産研究・教育機構 水産資源研究所  
さけますセンター 資源生態部  
本多 健太郎

# 北太平洋において漁獲対象となるさけマス類

サケ (*Oncorhynchus keta*)



カラフトマス (*O. gorbusha*)



ベニザケ (*O. nerka*)



ギンザケ (*O. kisutch*)



マスノスケ (*O. tshawytscha*)



サクラマス (*O. masou*)



スチールヘッドトラウト (*O. mykiss*)

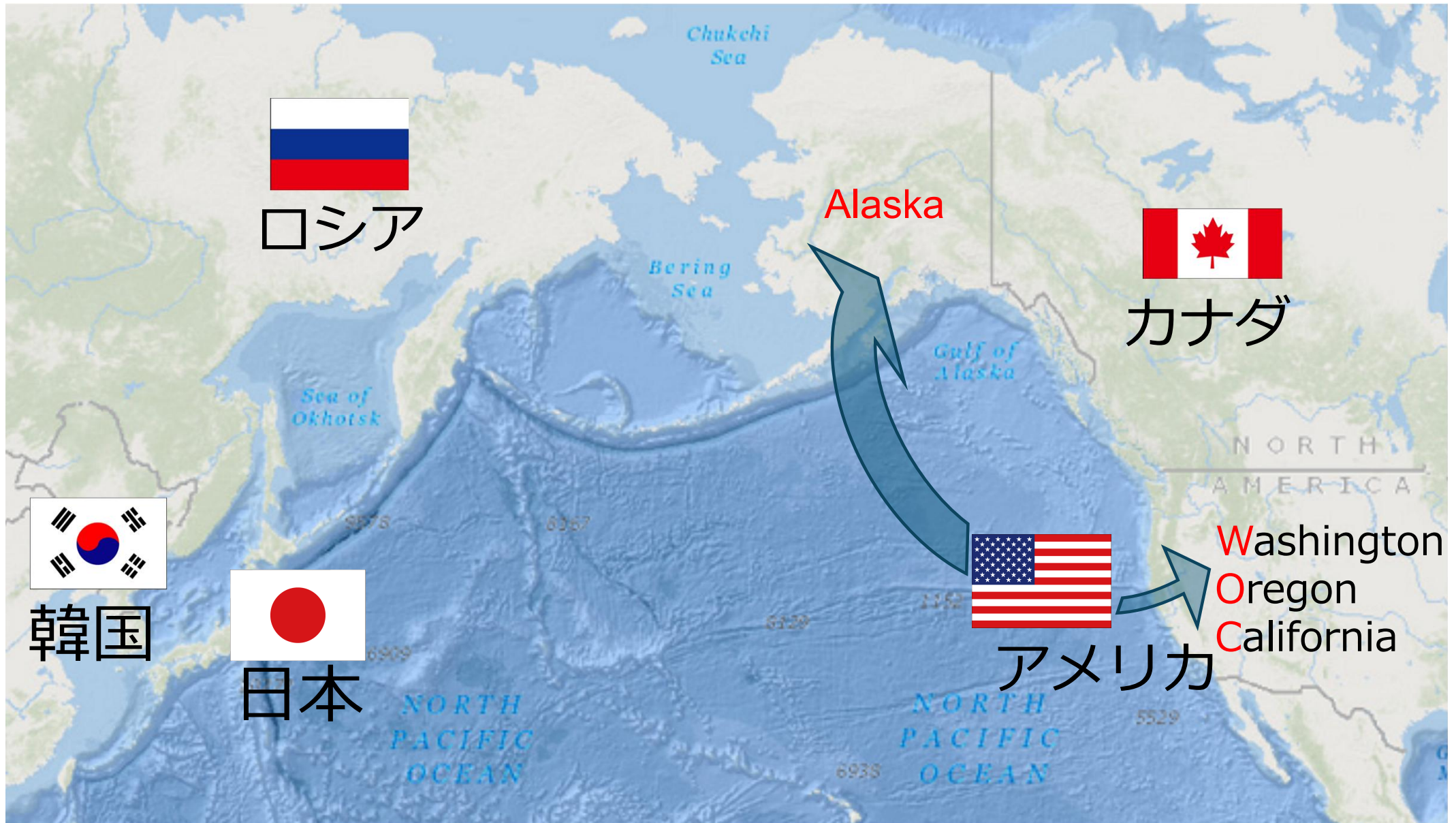


写真は「令和7年度国際漁業資源の現況 60 サケ・マス類の漁業と資源調査（総説）」より転載

# North Pacific Anadromous Fish Commission (NPAFC)

## 北太平洋溯河性魚類委員会

(北太平洋における溯河性魚類の系群の保存のための条約 加盟5力国)



# 北太平洋におけるさけます類の商業漁獲量の推移

2025年  
74.5万トン

■ カラフトマス   ■ サケ   ■ ベニザケ  
■ ギンザケ   ■ マスノスケ   ■ サクラマス  
■ スチールヘッド

サケは1980年以降最少

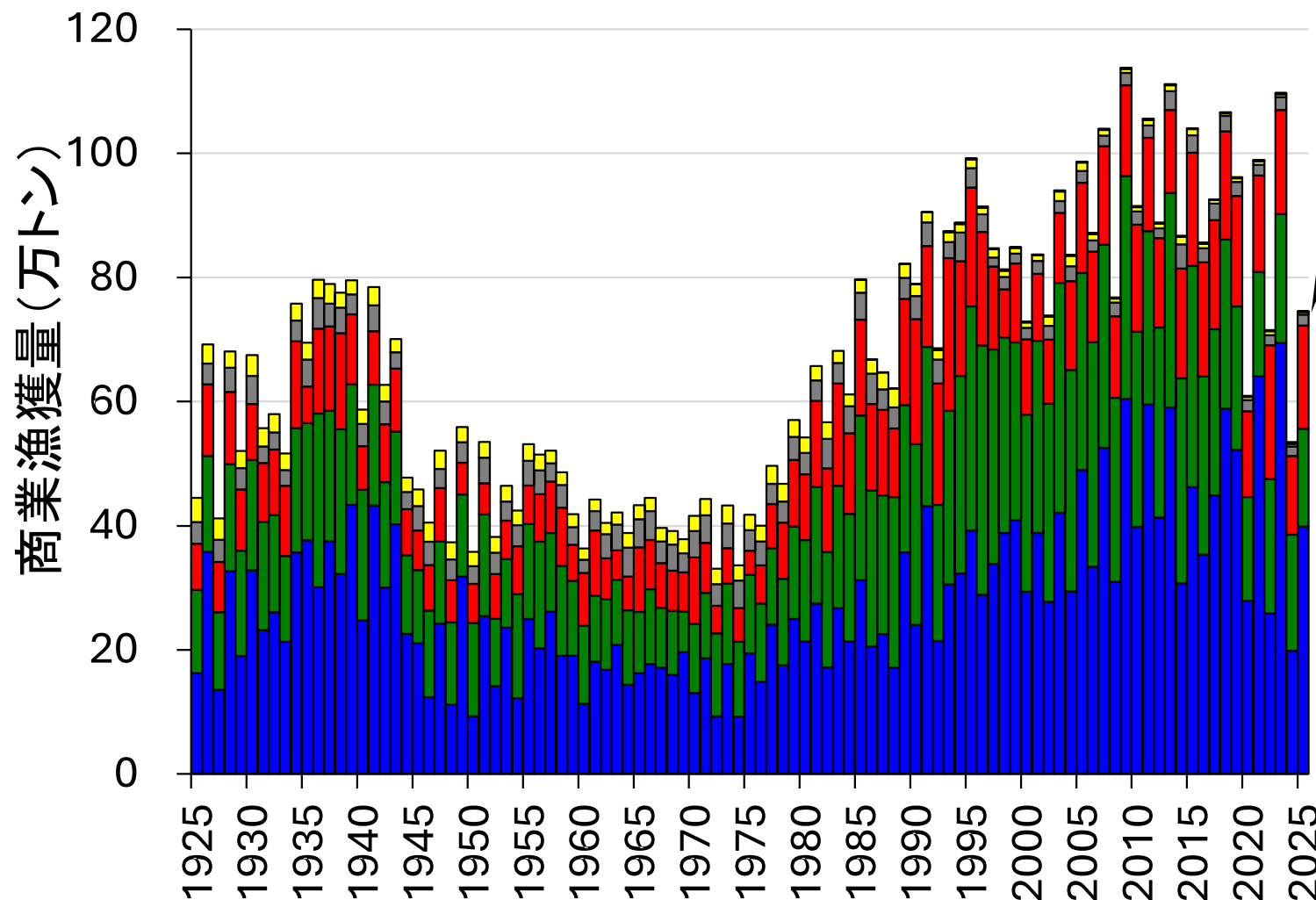
ベニザケ



サケ



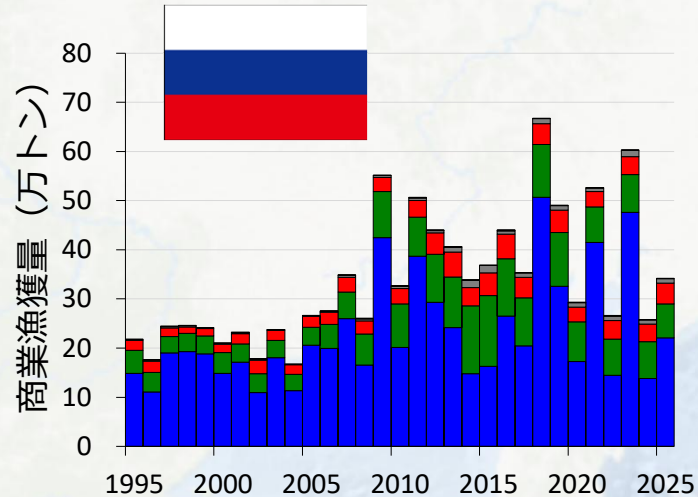
カラフトマス



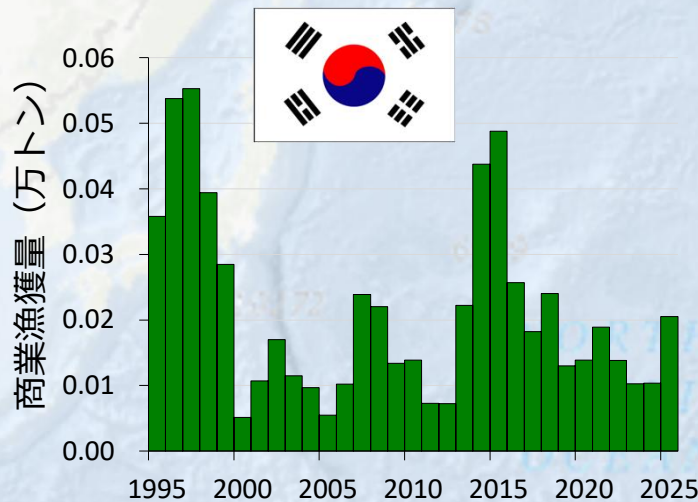
NPAFC Catch Statistics  
(2025年データは速報値)

# 国・地域別のさけます類漁獲量の推移

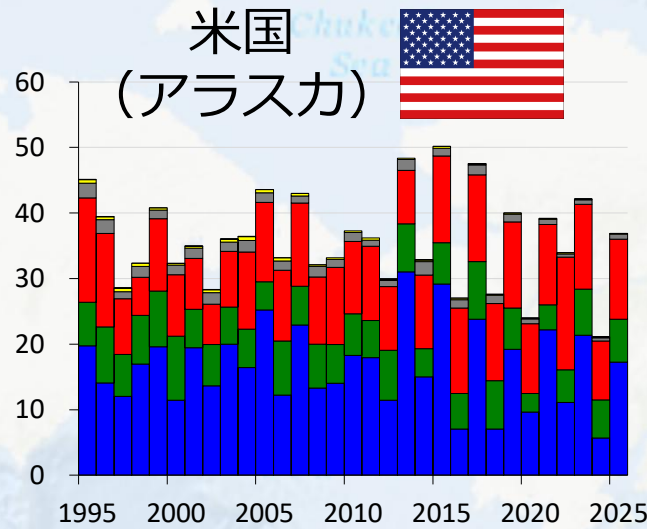
ロシア



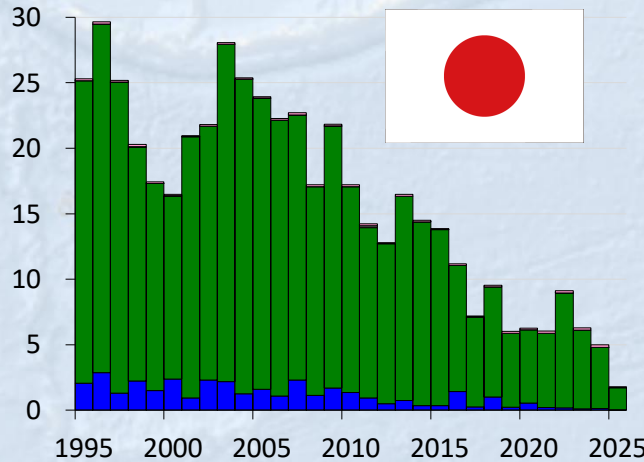
韓国



米国  
(アラスカ)



日本

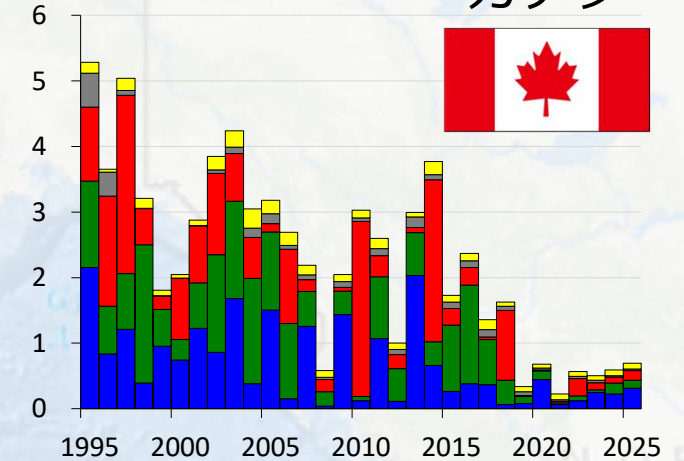


WOC :  
ワシントン・オレゴン・カリフォルニア

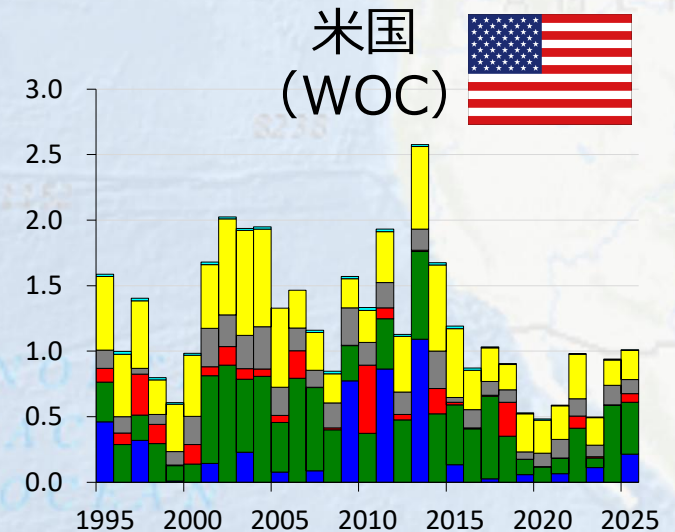
NPAFC Catch Statistics  
(2025年データは速報値)

- カラフトマス
- ベニザケ
- マスノスケ
- スチールヘッド
- サケ
- ギンザケ
- サクラマス

カナダ



米国  
(WOC)



# サケ地域別漁獲量の推移



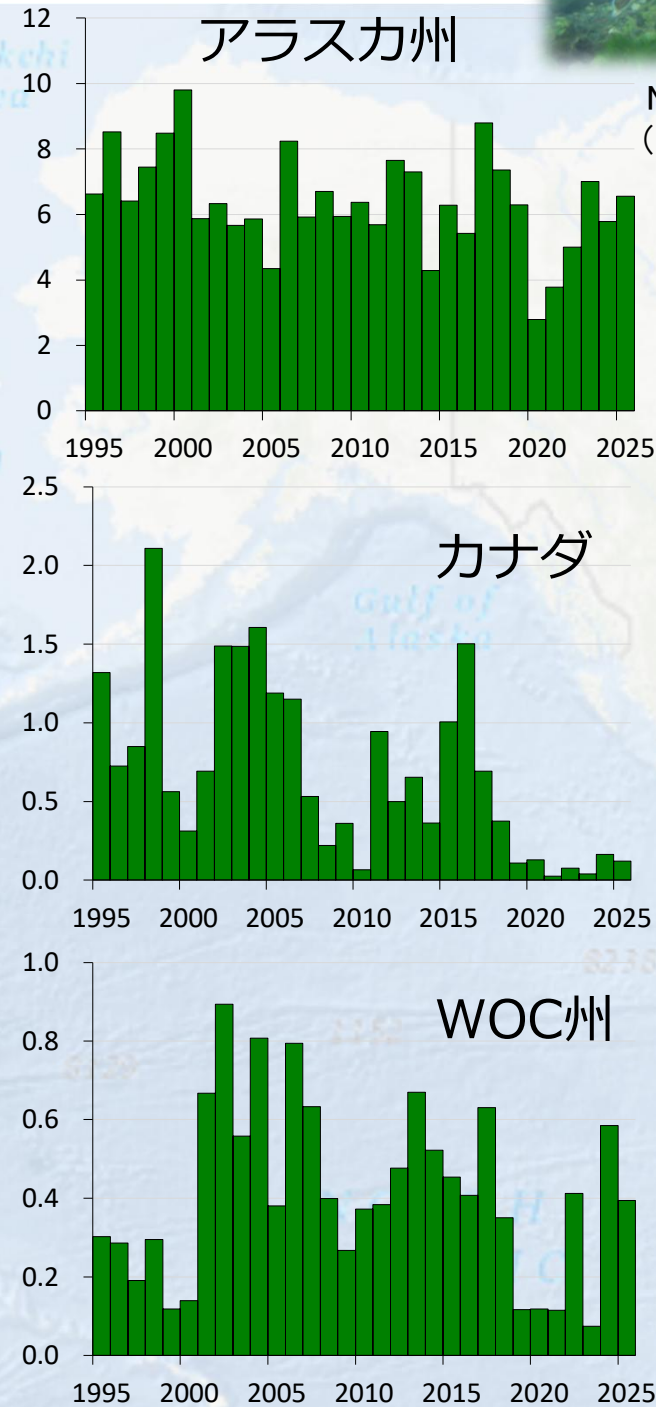
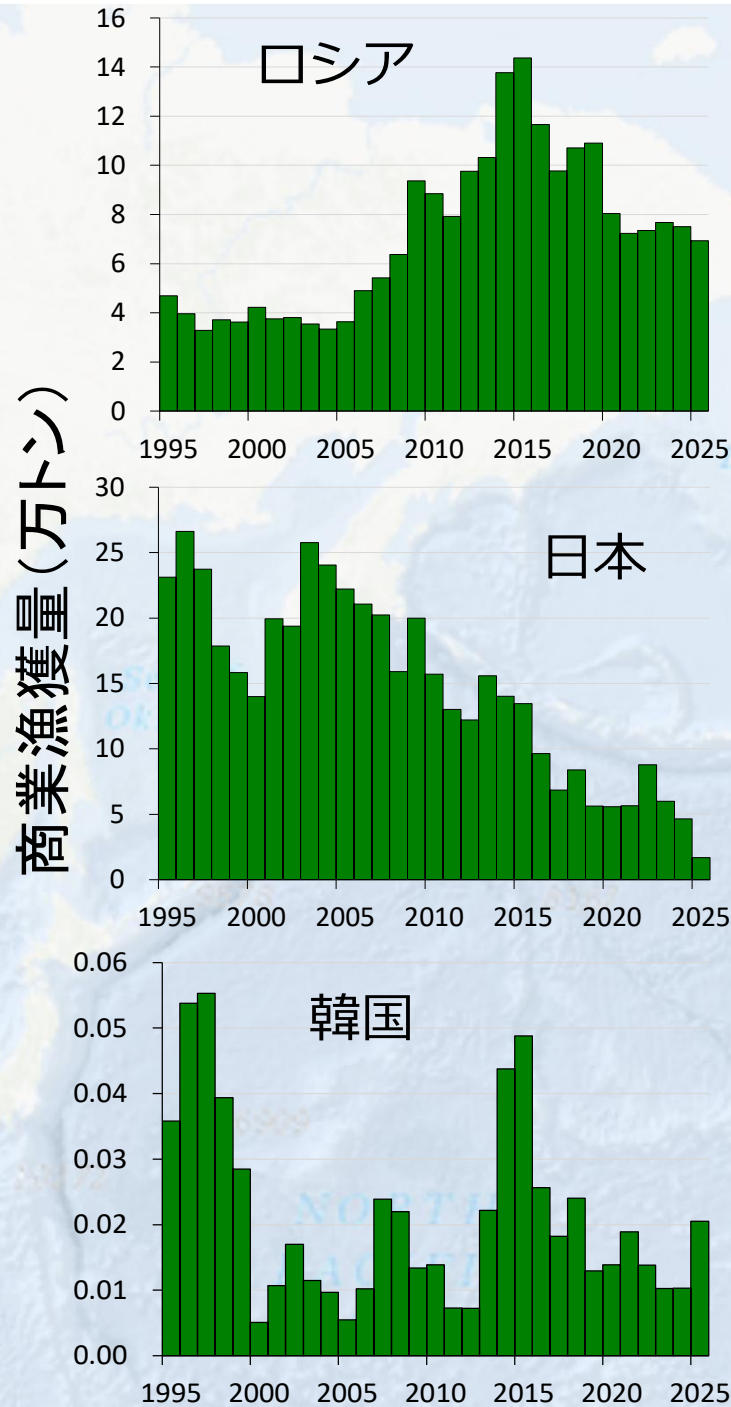
NPAFC Catch Statistics  
(2025年データは速報値)

北

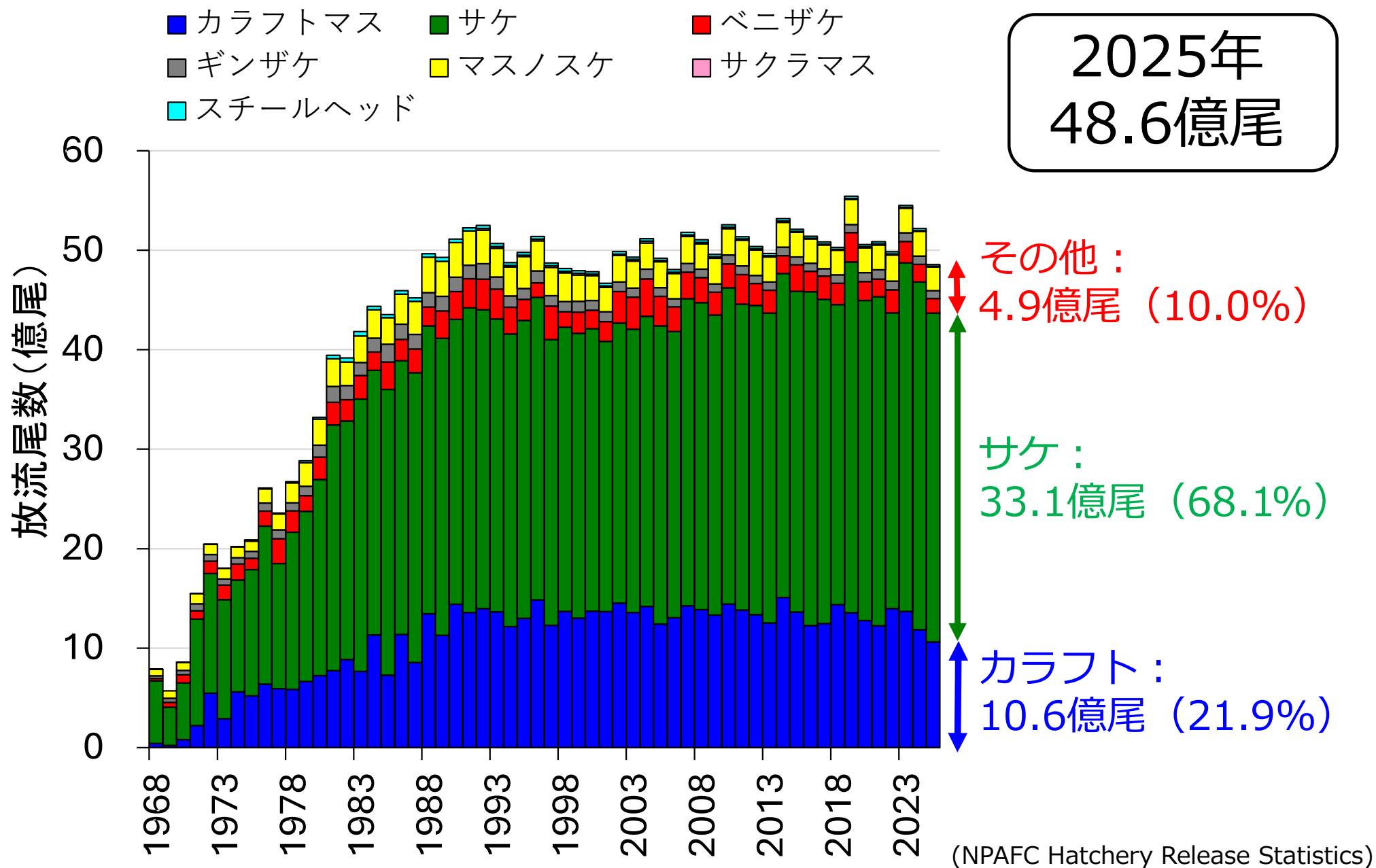


南

商業漁獲量(万トン)

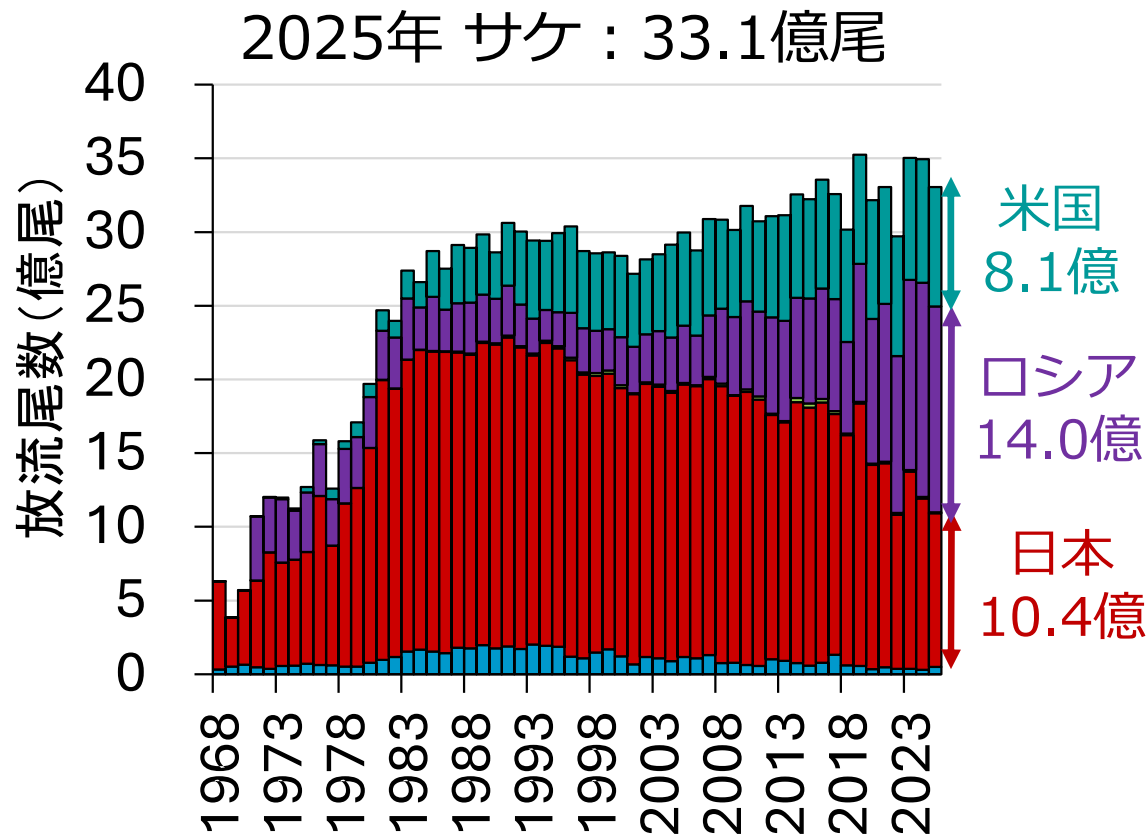


# 北太平洋におけるさけます類の放流数

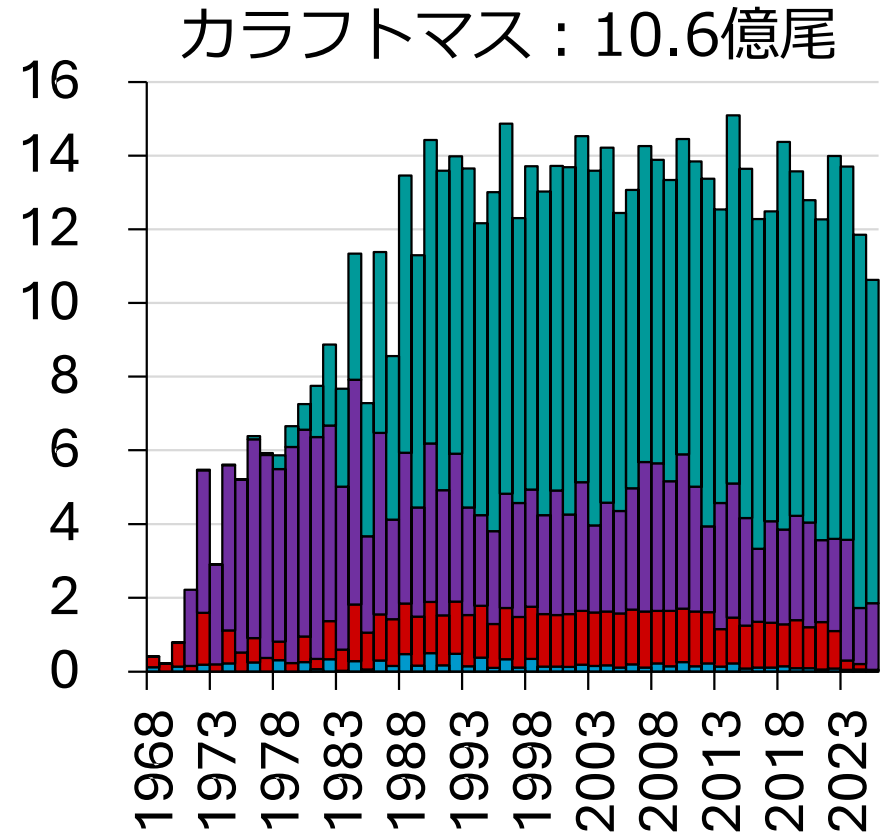


# 国別のサケ・カラフトマス放流数の推移

■ カナダ ■ 日本 ■ 韓国 ■ ロシア ■ 米国



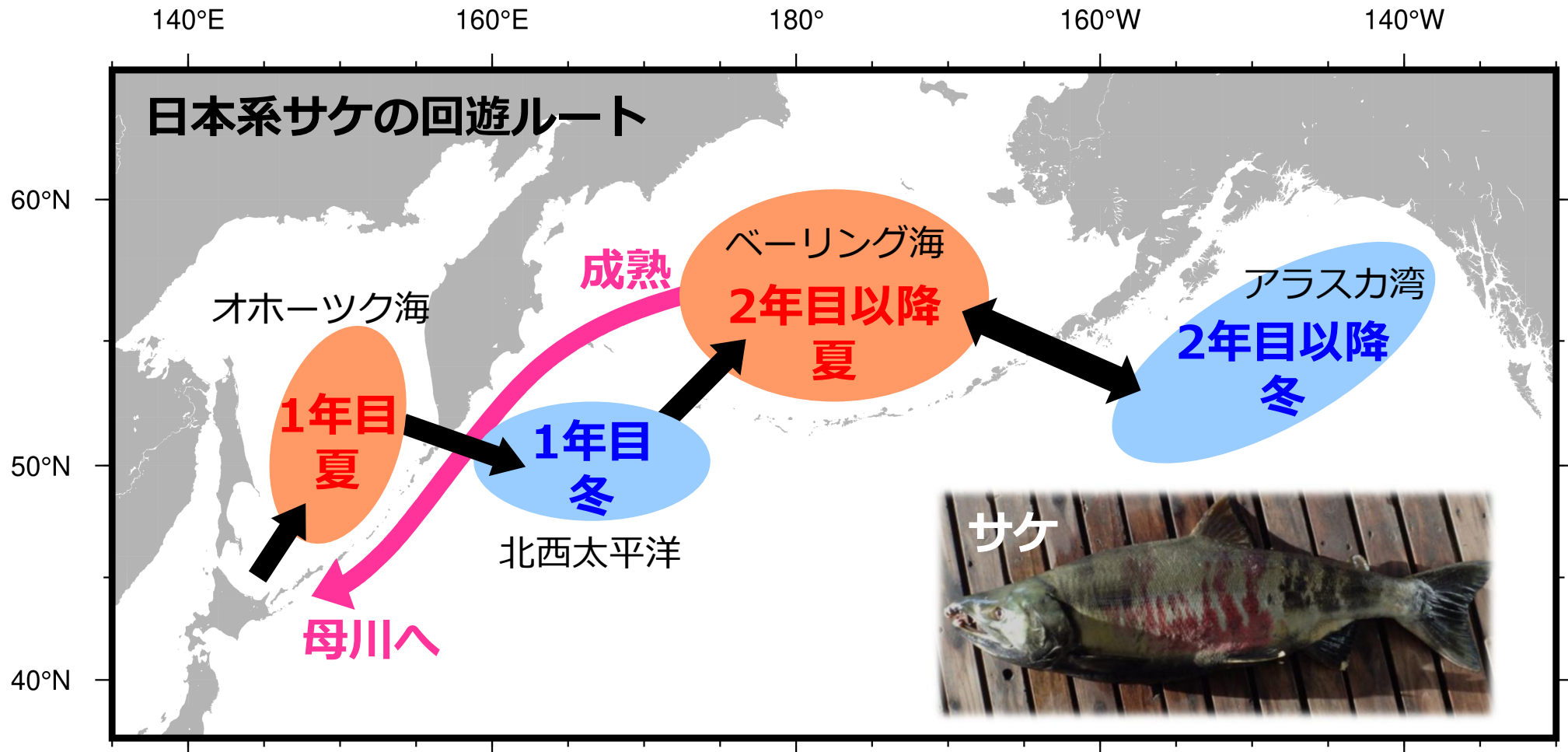
2025年はロシアの放流数が  
日本よりも約3.5億尾多い



2025年は日本の放流数  
が155万尾まで減少

# 2025年夏季ベーリング海調査結果

ベーリング海は、



日本系サケの2年目以降の索餌回遊域

# モニタリング17定点

北光丸（902トン）



- ✓ 表層トロール1時間曳
- ✓ CTD、動物プランクトン採集
- ✓ アーカイバルタグ・標識放流

Monitoring points (H21 to H25 and H07 to H12) are marked on the map of the Kuroshio Current region.

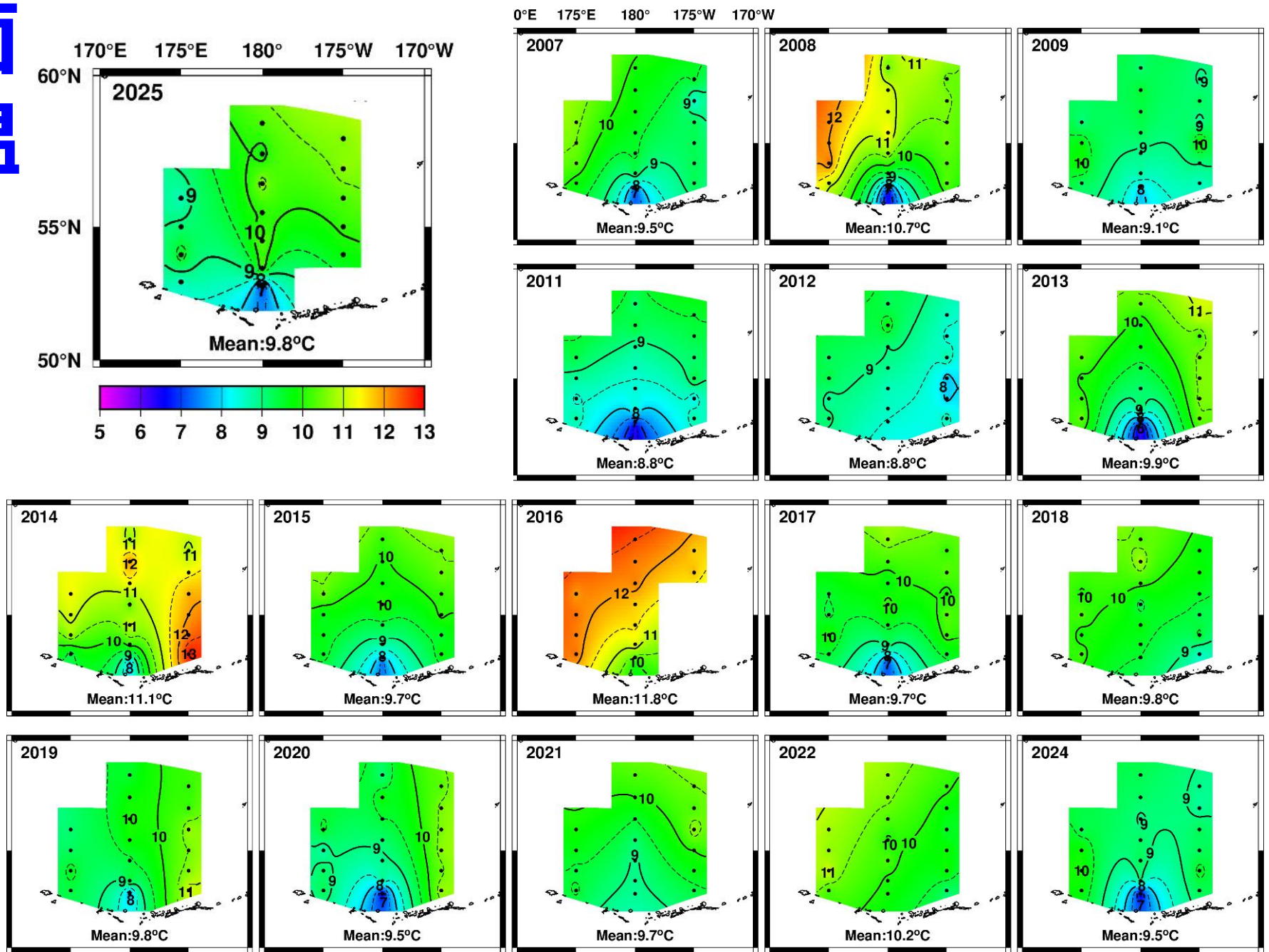
資源状態と生物特性を明らかにするために

Data SIO, NOAA, U.S. Navy, NGA, GEBCO  
Image Landsat / Copernicus  
Image IBCAO

594 km

Google Earth

# 表面 水温

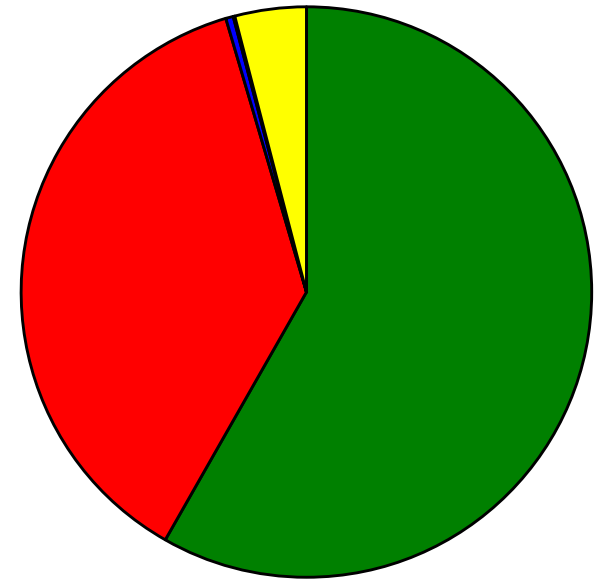


✓ 16定点の平均 (9.8°C) は過去平均と同様

# 各種の総漁獲尾数

2025年\*  
(2007-2024範囲\*\*)

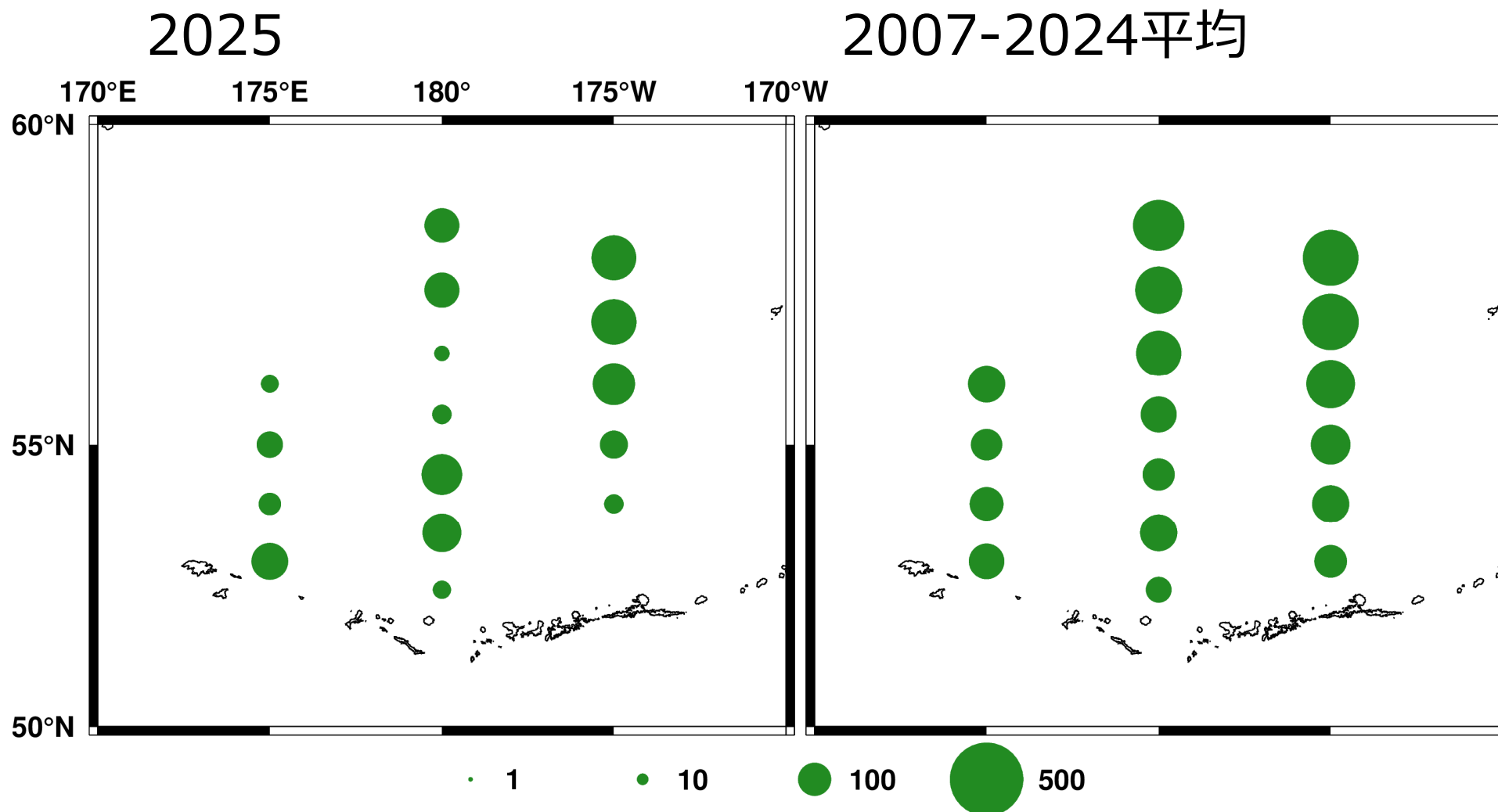
|          |                  |
|----------|------------------|
| ● サケ     | 1367 (1504-3308) |
| ● ベニザケ   | 873 (160-1571)   |
| ● カラフトマス | 10 (1-55)        |
| ● ギンザケ   | 2 (0-9)          |
| ● マスノスケ  | 95 (32-136)      |



\*16定点、\*\*2010&2023は調査無し、2016は13定点

✓ サケが58.2%（例年約8割）と低く、  
ベニザケが37.2%（例年約2割）と高い

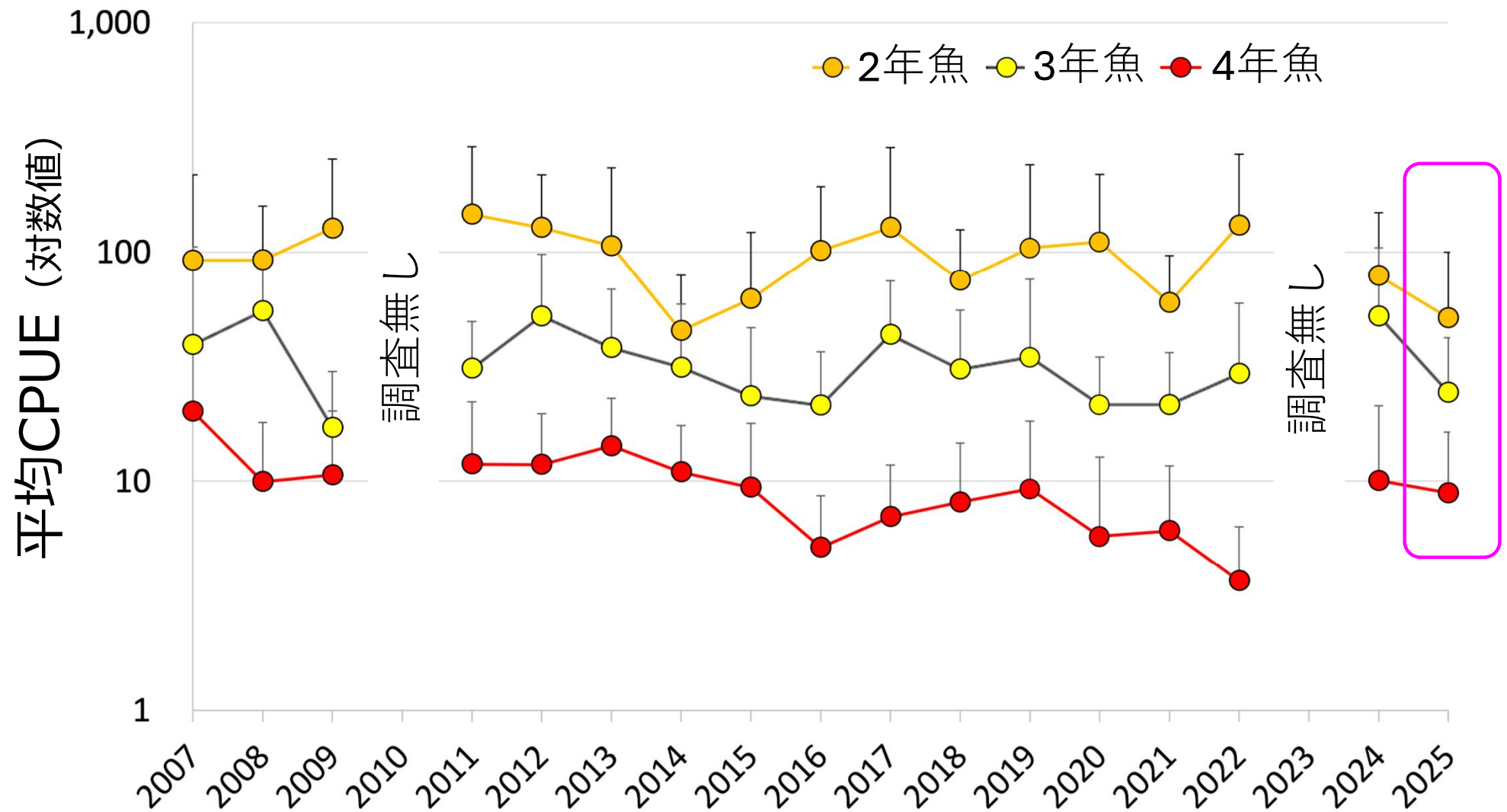
# サケの曳網一時間あたりの漁獲尾数（CPUE）



✓ 平均CPUE（85.4尾）は平年比56.5%

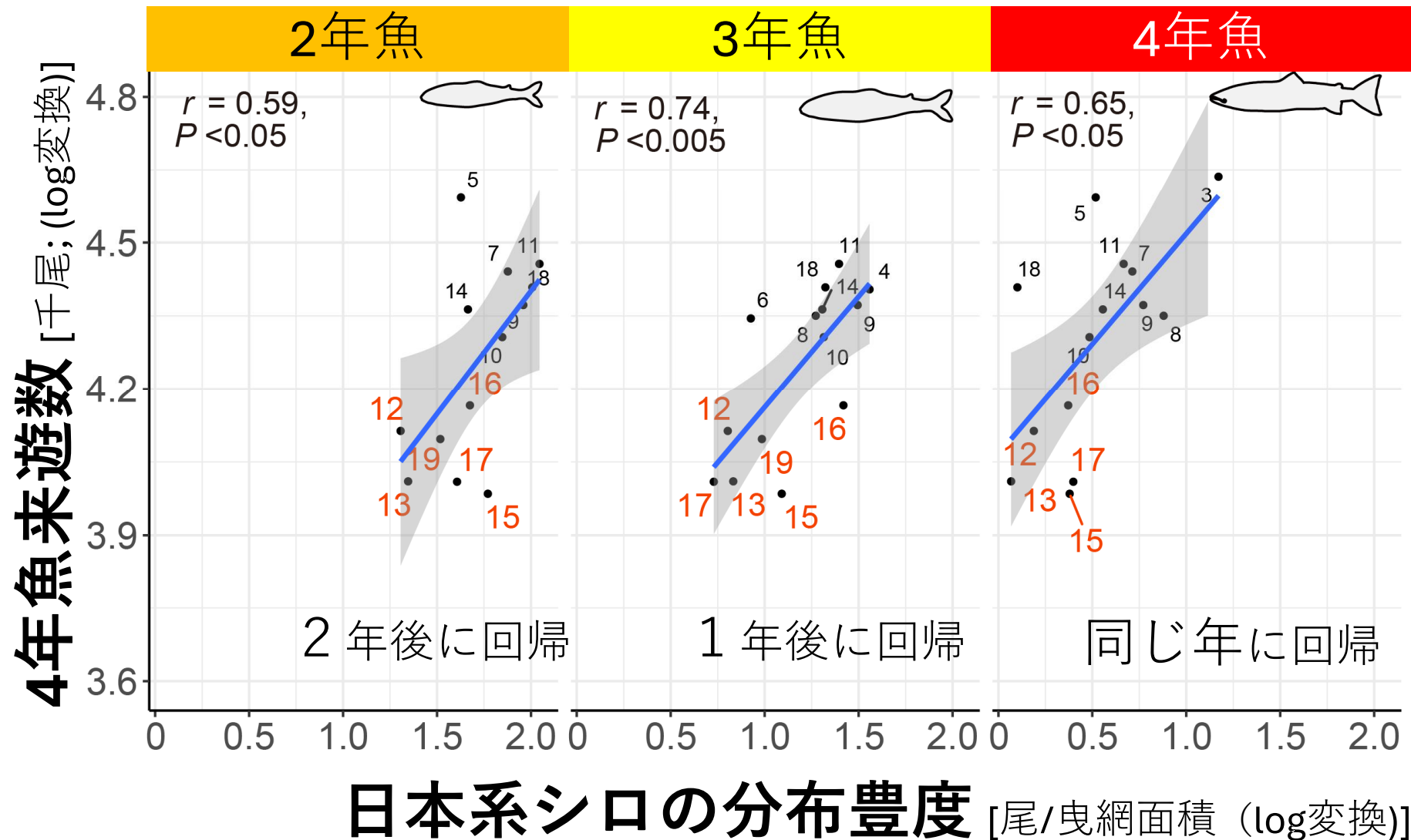
# サケの年齢別CPUE

※バーは標準偏差



✓ 2025年は2年魚は平年比52%、3年魚は72%

# ベーリングでの分布豊度と来遊数の関係



- ▶ 2年魚の少ない年級は、3～4年魚も少ない
- ✓ 初回越冬までの生残が資源量を左右

# ポップアップ衛星タグによる行動追跡

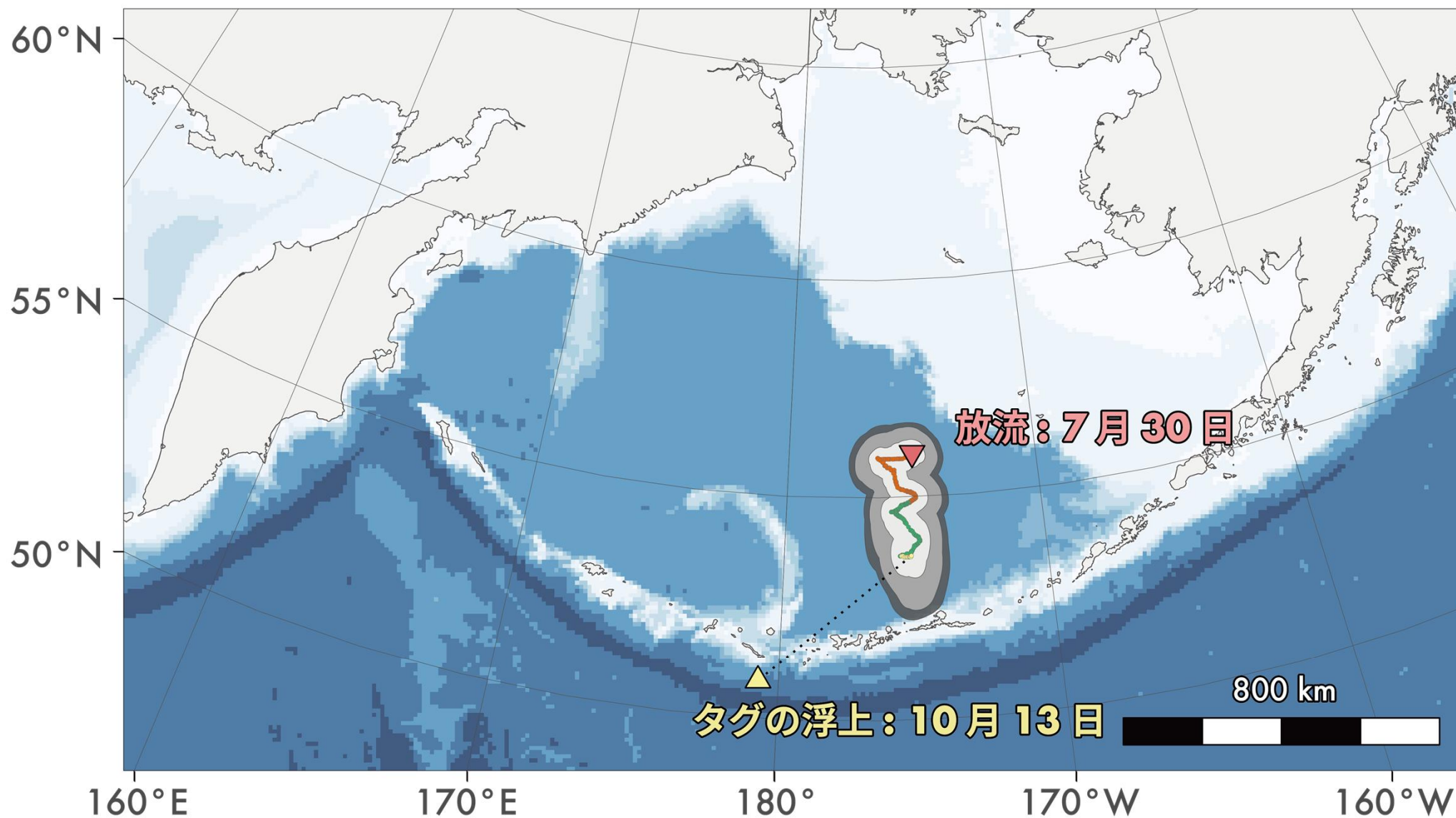
## MiniPAT (Wildlife Computers)

- 水温
- 深度
- 照度
- 活動度

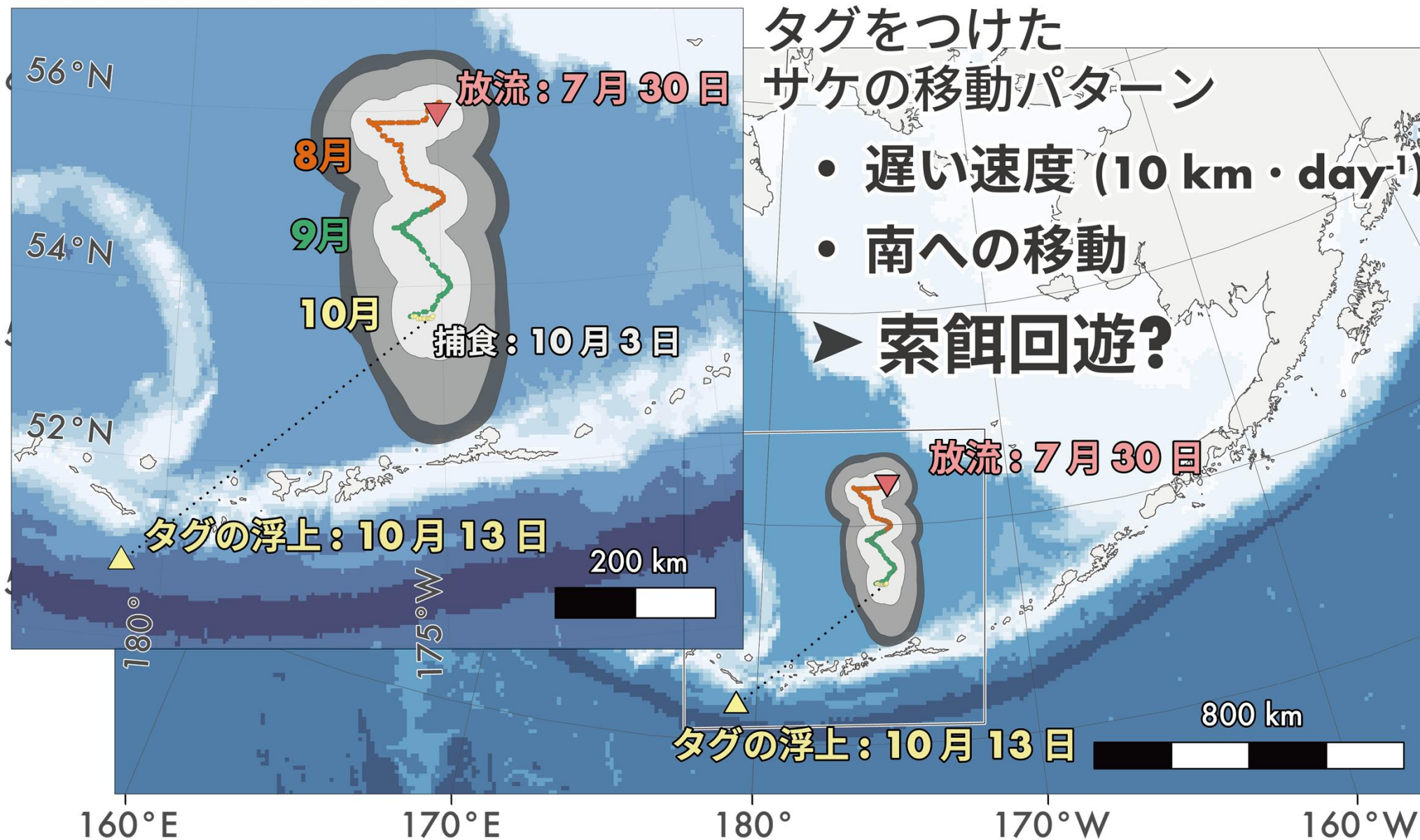
1. 回遊経路
2. 遊泳行動

✓ 2024年7月30日に  
尾叉長53cmの4年魚  
に装着・放流

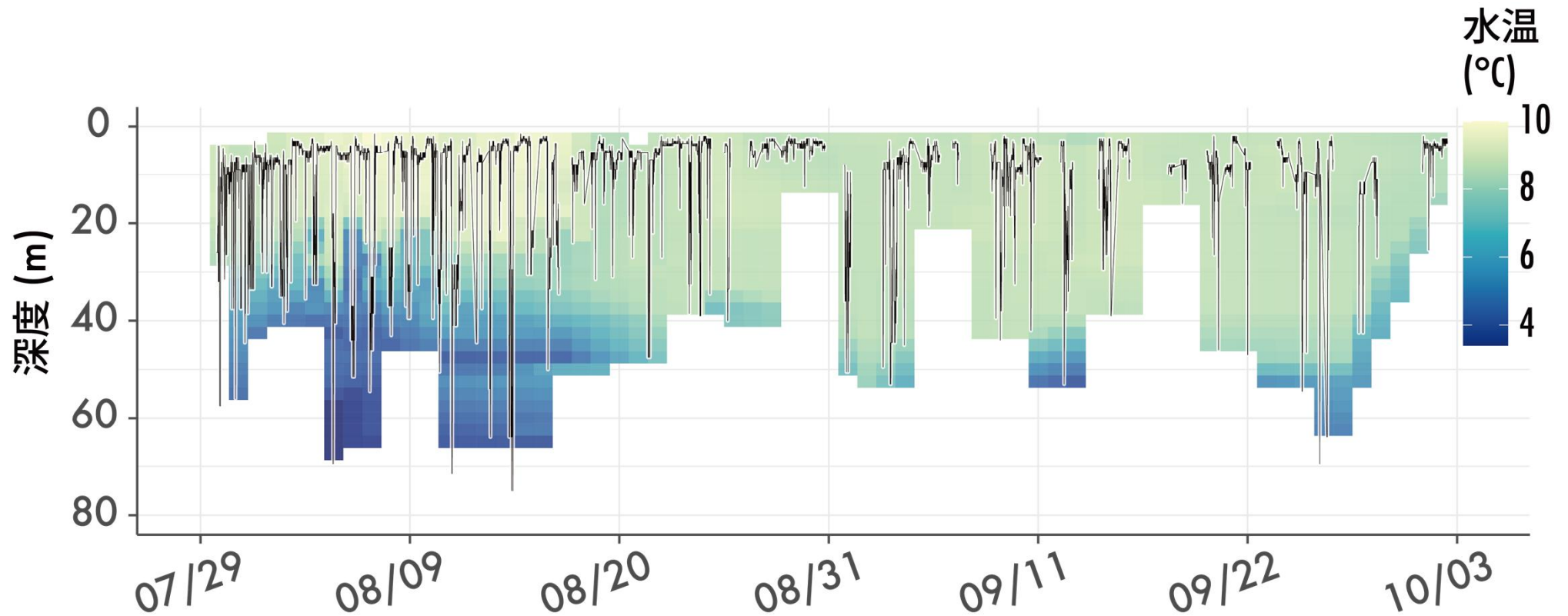
# 2024年の追跡結果



# 2024年の追跡結果

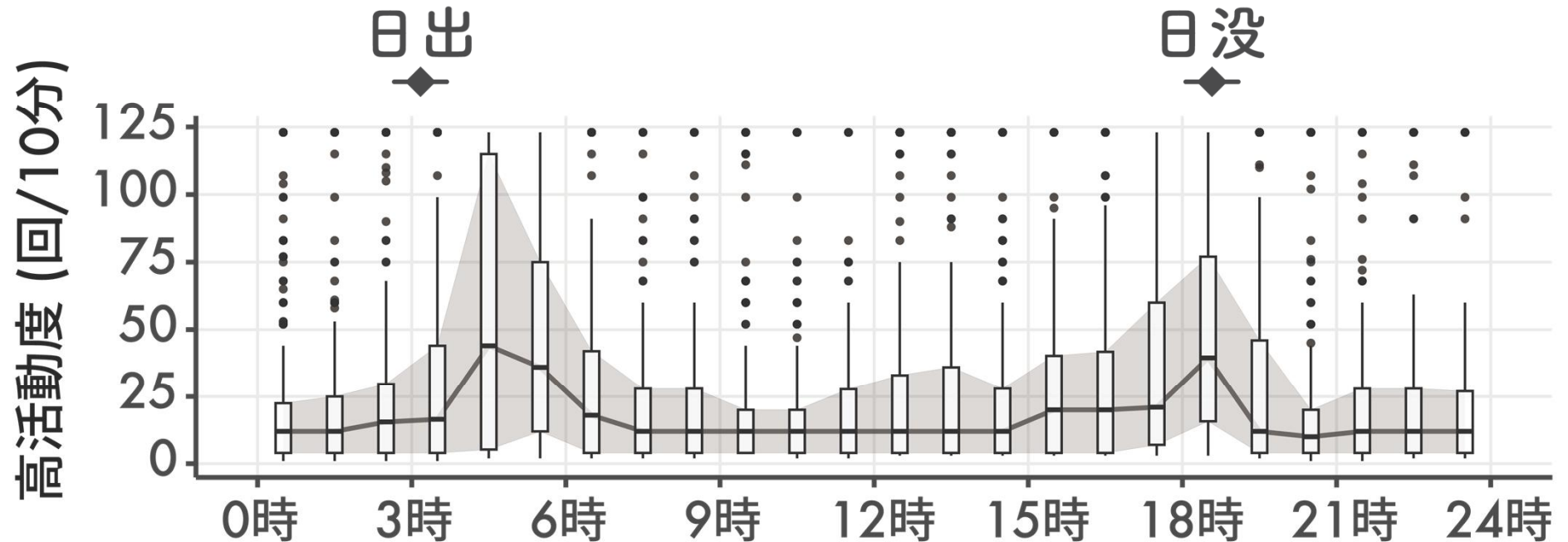


# サケの遊泳行動：鉛直移動



- 主に表層を利用
- 時に躍層付近を利用

# サケの遊泳行動：活動度



- 日の出、日の入に高い活動度

✓ 今後も放流を継続し、回遊生態の解明へ

# まとめ

- サケの分布の南限域、特に日本とカナダで資源が低迷
- 日本の放流数は減少傾向
- 2025年夏のベーリング海ではサケは少なめだった
- 日本系サケの豊度と来遊数に相関
- 引き続き、資源量推定精度の向上を目指す